

阪神・淡路大震災25年 神戸新聞が発行した「臨時明石版」

タコママ（以下ママ） この前、明石総局のかび臭い倉庫を物色しとったら、えらいもん見つけてしもたんや。

タイオ 何や？ 金目のもんあるわけないし…、もしかして、ネ、ネズミのミイラか！？

ママ なんでやねん。一応、新聞やねんけど、いつもとちょっと違うねん。よう見たら「臨時明石版」って書いてあるし。

タイオ 臨時？

ママ ほんでうち、急に思い出してん。そうや、25年前に見たやつやんって。

タイオ えらい古い話やな。もしかしてママが女子大生のときか。あの頃はかわいかったな。

ママ うるさいわ。阪神・淡路大震災で、うちの家も壁にひび入って、電気も水もガスも止まったから、近くの小学校に避難してん。そんなとき、体育館で配ってたやつやねん。

タイオ へえ、オレ見たことないわ。

ママ 倉庫でスクラップ全部読んでたら、当時のこといっぱい思い出して眠れんようになって…。だから、あんたに見せたらおもて借りてきてん。

タイオ 見出しすごいな。「水がない、食料も」とか「家屋崩壊、走る亀裂…」とか。明石もすごい被災地やってんな。

ママ あのとき、神戸新聞は三宮の本社ビルが全壊して、京都新聞の応援でや

っと新聞出せてんけど、地域版までは無理やってん。

で、当時の明石版担当の記者さんたちがいろんな人に助けてもらって、独自の新聞出しとったんやて。

それが、倉庫で見つけた臨時明石版＝写真【1】。A3判の4ページ。ペラペラやけど、執念感じるわ。

タイオ 被害情報だけやのうて、あいてる風呂屋とか水がもらえる場所とか、生活情報もいっぱいやな。当時はインターネットなんかないし、テレビも明石の情報も少なかったから、避難所でみんな新聞にかじりついとったな。

ママ 約1月半、第12号まで出してはるわ。ほれ、あんたも読んでみ。震災のまっただ中の緊張感が、黄ばんだ紙面に閉じ込められてるわ。

タイオ そやけど、字が小さいな。最近、老眼が…。

ママ ごめん。全部は無理やから一つだけ再掲するわ。「ありがとう」っていうコラム＝写真【2】。この記事は記者さんが読者の人たちに宛てたメッセージやけど、あのとき、みんなが誰かに助けられて、「ありがとう」って言いたかってん。「ありがとう」っていう言葉の裏に、「亡くなった人の分も、しっかりがんばります」っていう誓いがあったん。

明石市民も26人が亡くなって、自宅の全半壊は1万5千世帯もあったんやで。

タイオ そやな。あのときの誓い、忘れたらあかんな。

2020/1/13



誌日局総

「あの日」か 神戸新聞を取って誇りとの統合型ながら、地方版
ら、ひと月が来に思う」と、魚住町の竹本が復活できる見通しだ。こ
ようとしている。早苗さんは「十七日からの臨時版を垂水区と西区の
この間、多くの新聞を一生取っておきます」読者に届けるのは今回が最
激励の手紙や電と書いて下さった◆涙なが後になる。短い期間、限ら
話をいただいた。らの電話に胸が熱くなったれた分量の情報で、十分に

長年この仕事をしていて、こともあった。高丘東小学役立ててもらえたかどうか、
読者の存在をこれほど身近校五年一組の児童が届けて甚だ心もとない◆逆に私た
に感じたことはない。総局くれた缶コーヒーで疲れをちは震災を通して、読者や
の全員が「読者あつての新吹き飛ばし、大久保町の浅市民から多くのことを教え
聞」との思い
られた。臨時

を新たにした

◆学園西町の

清水忠行さん

「ありがとう」

版第三号の
「一・一七を
忘れない」で

は「読者離れの心配は無用。倉文逸さんの「頑張れ」と書いた決意に揺るぎはない。
読者にだって読者魂がある」いう墨字に奮い立った。紹 今後は一日も早く本来の紙
と励ましてくれた。「情報 介できない分を含め、手紙 面に戻し、速く必要な情報
不足の中、明石版は唯一の は全員が目を通し、今も総 を届けるという新聞の使命
光明」と表現してくれたの 局の壁に張り出してある◆ を果たすべく努力を続ける
は西明石町の大熊律夫さん。 こうした理解と応援に支え つもりだ◆ご愛読ありがと
舞子坂の西澤知子さんは られて、神戸新聞の紙面も うございました。そして、
「どんな思いをして、この 少しずつ回復してきた。来 これからもよろしくお願
新聞が手元に届いているか。 週の後半ばまでには、隣接地 します。